

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 教授

氏名 寺田晃士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

専門科目として遺伝子および染色体についての講義および実習、それらの基礎となる科目として基礎遺伝学や生物有機化学の講義を担当する。臨床検査技師国家試験において、遺伝子検査関連の問題に対応できる知識を習得させることが責任であると考えている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生物有機化学	臨床検査技術学科	必修	1	84
基礎遺伝学	臨床検査技術学科	必修	2	96
総合臨床検査学II	臨床検査技術学科	必修	3	103
遺伝子検査学	臨床検査技術学科	必修	4	95
遺伝子検査学実習	臨床検査技術学科	必修	4	95
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	103
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	2	3
分子病態解析学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

学生には、自分がどのような人生を送りたいかを考えてそうなるために時間を使う、そのような人間になって欲しい。臨床検査技術学科の学生ならば国家試験に合格することが自己の希望であることを忘れずに努力して欲しい。自分のために時間を有効に使うことの重要性に気づかせ、実際に努力させることが自身の責務であると考えている。一方、その重要性に対する学生の気づきを待つには余りに時間が足りないことも事実である。まずは学生の後悔にならないよう多少無理にでも学修させて国家試験に合格させ、いつか、自分のために努力するような人生に目覚めてくれることを期待する。そうすることも大切であると考えている。臨床検査技術学科に入学した学生には、国家試験を目標として4年間を過ごすのだという意識・覚悟をもって欲しい。そうあるべきだと伝えたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技術学科の学生には国家試験に合格することが自己の希望であることを忘れずに努力して欲しい。自分のために時間を有効に使うことの重要性に気づかせ、実際に努力させることが自身の責務であると考えている。一方、その重要性に対する学生の気づきを待つには余りに時間が足りないことも事実である。まずは学生の後悔にならないよう多少無理にでも学修させて国家試験に合格させ、いつか、自分のために努力するような人生に目覚めてくれることを期待する。そうすることも大切であると考えている。臨床検査技術学科に入学した学生には、国家試験を目標として4年間を過ごすのだという意識・覚悟をもって欲しい。そうあるべきだと伝えたい。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習では、結果、結果の考察についての説明などを班単位で行なってもらい、それについて質問やアドバイスを行う時間を儲けた。また、それらプロセスについてレポートとしてまとめてもらい、レポートの添削も行った。

(2) ICTの教育活用

有

パワーポイントを使った講義および、自習用演習問題、講義資料のAzaMoodleへのアップロード

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義ではパワーポイントのアニメーションも含め、なるべく視覚的に理解および記憶できるように、主に絵を使って説明できる資料を作成した。特に、教科書の図で複雑で理解しにくいと思われる部分に関して、教科書の図を複数に分割して書き直し、分割した図を順番に、時間をかけて解説した。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義中にAzaMoodleを使って問題演習を行い、また、小テストを行った。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義内容を確認するための練習問題をアップロードして複数回繰り返すよう呼びかけた。その類似問題を小テストに課すことを予告するなどして学修を促した。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義後に教室に残っている学生に講義の感想を求めるなどし、質問にもオープンに対応した。講義の冒頭では教室の前方で受講するよう呼びかけも行うようにしている。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義中にAzaMoodleで演習問題に回答してもらい、正答率から説明不足だと感じた場合には、該当部分の説明を繰り返した。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

担当分野における基本的事項を国家試験対策という観点からまとめたリストを講義の配布資料としてアップロードした。また、国家試験過去問題の傾向に沿った演習問題を作成し、総合臨床検査学演習の講義で解説を行った。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

今のところ、学生や第三者からのフィードバック等は得られていない。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

定期試験では多くの答案に講義内容を理解したことを示すような解答が見受けられた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業評価アンケートの結果が届き次第、内容を吟味して講義内容や講義の構成の改善に取り組みたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

パワーポイントの絵やアニメーションをなるべく多く使い、生命現象を視覚的にイメージできて短時間で理解できるような資料作りを心がけた。また、基本的な語句など暗記が必要なものはリストを作成し、問題演習を繰り返し行うことや小テストを実施することで基本事項を定着させていく。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

今のところ、学生や第三者からのフィードバック等は得られていない。授業評価アンケートの結果が届いたら講義内容や講義の構成の改善のために活かしたい。

7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD研修にはほぼ一通り参加した。今後も積極的に参加し、都合により参加できなかった場合にも録画の視聴などで研鑽を積みたい。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期) まずは、学生の基礎学力レベルや学修意欲の程度に関する把握に努める。教育方法に示したような方法が効果を上げるかどうか見極め、継続するか方向転換を行うか、方向転換とまでいかなくとも追加や微調整など行うか検討する。そのようにしながら、学生に合う教育方針を探っていきたい。

長期) 学生の学力向上を実現できる教育方針を見出しつつ、より一層の改良に取り組む。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

授業に関するもの：パワーポイント資料

教育改善に関するもの：シラバス